

中島みゆきの「夜会」日出彦

2006年2月8日夕、遂に清水の舞台から飛び降りる心地で「夜会」に初参加しました。チケットには開場19時15分、開演20時と書かれていたので、19時30分すぎに劇場に到着する予定を立てました。

2004年まではbunkamuraのシアターコクーンが会場となっていました。2年ぶりの公演となる今年から青山劇場に代わったということです。劇場の収容人員はシアターコクーンが747席、青山劇場が1200席（夜会のようにオーケストラビット使用時は1078席）ですので、約1.5倍に増えたことになります。



青山劇場入口



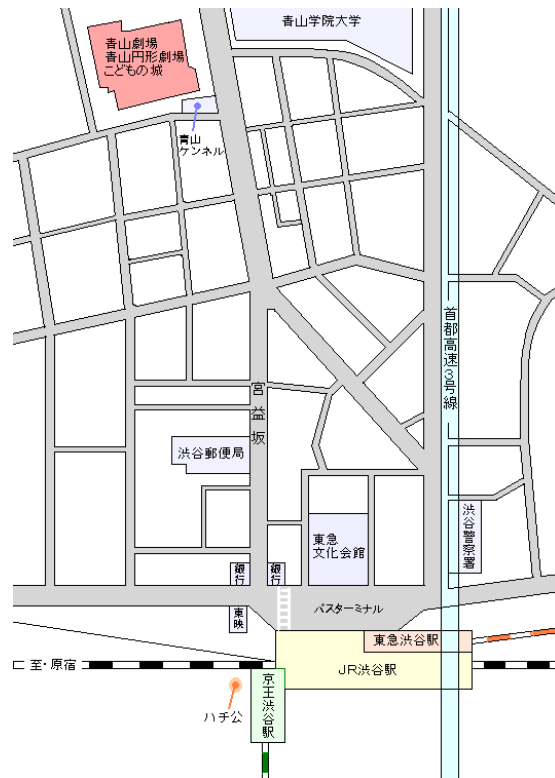
夜会のポスター



劇場内風景（青山劇場HPより）

この日は晴れてはいましたが、空気が乾燥し、襟巻と手袋とマスクが必要な程の寒さでした。青山劇場には JR 渋谷駅東口から宮益坂をだらだら登ってゆくと 10 分強で到着します。この劇場は財団法人児童育成協会という団体の運営によるもので、なんと「こどもの城」という施設の一部なのです。劇場のまん前にある岡本太郎のオブジェが目立ちます。そこは青山学院大学の入口と大通りを挟んで向かい合っており、時間帯が合ったため多くの学生とすれ違いました。

「夜会」の看板は思ったよりささやかで、夜だと通り過ぎてしまいそうです。驚いたことに 19 時半過ぎなのにまだ開場しておらず、長蛇の列ができていました。若いスタッフが慌てながら整理に当たっていましたが、開演準備の遅れている様子がハンドイーターキーの応答でよく分かります。当日売りのチケットもあるのですが、抽選によるらしく、整理券を配っていました。30 席位が用意されていたようです。でも、ほとんどの人は予約していたようです。

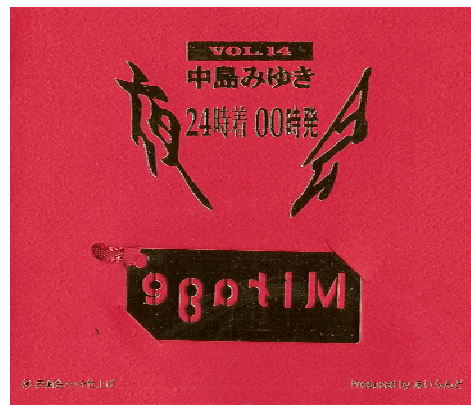


列に並んで安心したのは、中年や熟年の観客も多いこと、一人で観に来ている人も多いことでした。演歌歌手の公演などとは全く違った雰囲気、世代も広く、さすがに子供はいませんが、20代から80代までをカバーしているように見受けられました。プロジェクト X や紅白効果かも知れませんが。みな大人で時間が押していても静かに待っています。

入口で厳重なカメラチェックがありましたが、なぜか携帯電話はパス。もちろん、不正はしませんでした。が、「いいのかなあ」と思いました。場内に入ると流れに誘導されて、自然に地下ホールに辿り着き、そこではみゆきグッズの販売が行なわれています。なぜかサロンパスと提携していて、試用品交換所も設けてありました。小生も早速幾つかのグッズを購入。大きなカレンダーを研究室用に購入しました。DVDを購入するとサイン入り色紙を貰えると言うので、これも買ってしまいました。色紙は13cm角の小さなものでした。



みゆきさん直筆の色紙



ミラージュの葉

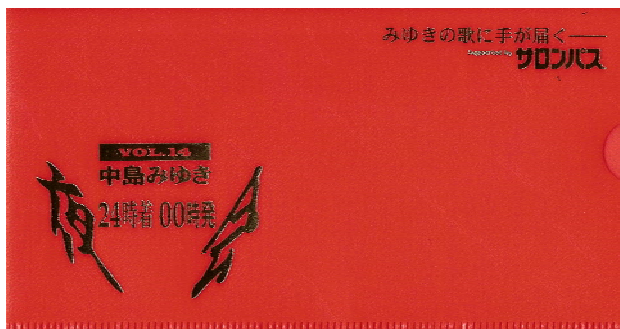


卓上カレンダー（壁掛けカレンダーと同じ図柄）

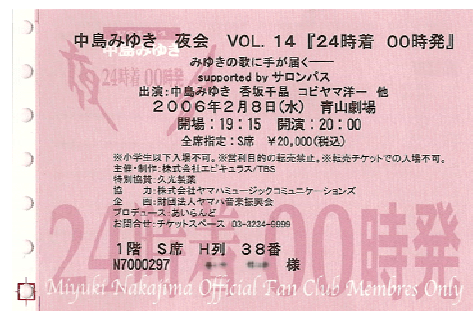
今回の夜会は「Vol.14 中島みゆき 夜会 24時着 00時発 みゆきの歌に手が届くー」という長いタイトルであり、赤が基調です。2年前のタイトルが「24時着 0時発」なので、「0」が「00」に代わっただけ？ ちなみに、Vol.13はこれで夜会が終幕ということだったので、勇気を出して行かなかったことを悔いていたものです。

今回の公演は前回見逃したファンにとっての嬉しいプレゼントといえます。ところで「0」との違いは何でしょうか？ 発売されているDVDと比べると、「三日月の湖」という曲目が「00」からは削除されています。むだを刈り込んですっきりさせたということでしょうか？ 「00」は0²とも読めますね。バージョン2ということかも知れません。

開演5分前のブザーで観客が席に着いたのを見計って、暗転までの間に見渡すと満席の状態でした。この日は平日ですので、毎回千人強を集めているとすると、なかなかの集客力です。小生の席は1階S席H列38番で、まあ良い席でしょう。本来は直接出演者の表情が見える位置なのですが、老眼で（めがねを忘れて）みゆきさんの顔がパララックスに見えたのが残念です。



チケットホルダー

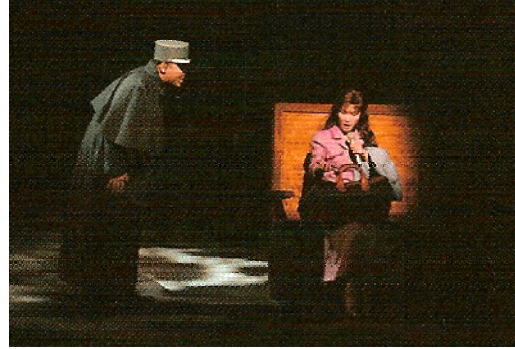


チケット

夜会は演劇なのかミュージカルなのかが最初の疑問でしたが、これについてはみゆきさんの言で「ヘンなコンサート」が正解のようです（資料①）。4幕の劇になっていて、26曲が歌われます（資料②及び④）。曲目は重複を避けると24曲になります。

物語は宮沢賢治の銀河鉄道へのオマージュだと思います（資料③）。冒頭にブラウン神父みたいな、あるいは999の車掌のような謎の人物が登場します。この人物は後に車掌になったり、ミラージュ（幻）ホテルのフロントに被ったりします。舞台がフェード・アウトすると「川辺あかり」という平凡な主婦がミシンを掛けています。これが主人公です。内

職に励むあかりの後姿は中年のおばさん風です。(若くみえても、みゆきさんも54ですからね。) やがて過労で倒れた主人公は不条理な夢の世界に迷いこんで行きます。細かいあらすじは資料を見て頂くとして、いろいろな謎を提示したまま、ミラージュ・ホテルにたどり着いて一幕目が終わります。

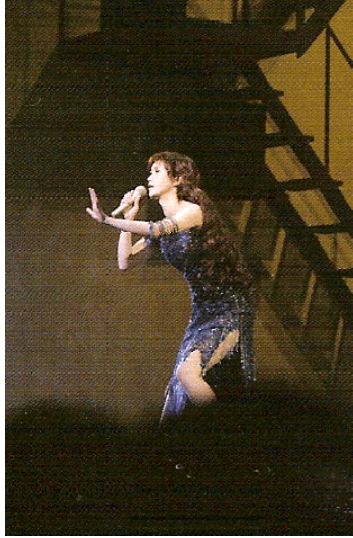


ここまで50分。二幕まで20分の休憩に入ります。飲食したい人やみゆきグッズの買い足りない人は地下ロビーへ向かいます。地下のスナックは”学食”以下で、コーヒーをすすりましたが、お勧めしません。

一幕が問題編とすると、二幕は解決編です。論理的手段はありませんが、一幕目の懸案に一応の解決が着きます。アカリの主人も無事釈放されるし。しかし、二幕目の見所はいろいろの趣向です。ホテルの2階から1階に降りる階段がない設定とかのプロット上の趣向と、壁にいつの間にかドアが生まれていて人が出入りしたり、ホテルがどんどん水底に変わって行ったりする舞台装置の仕掛けによって、それなりに飽きさせません。アカリとアカリのカゲ(香坂千晶)がペア

で動き回り、ところどころで入れ替るため、途中で混乱してどっちがみゆきさんかわからなくなり、観客にささやかな驚きを与えるのも趣向の一つでしょう。

しかし、二幕まで観てきて、みゆきファンには何かもの足りなさが蓄積されて来るのを感じました。歌は十分に紡がれてゆきます。いろいろな驚きも味わいました。でも、何か不足。その思いがつのって溜まっていき、二幕目が終わってしまうのです。



暗転後の三幕は、起承転結の転です。生まれ変わり、あるいはパラレルワールドの世界となり、野暮ったいみゆきが一転華やかなみゆきに変身します。そうなのです。溜まっていた不満足はこの「歌姫」みゆきさんの「サーモン・ダンス」を群舞の中で舞台狭しと歌って踊る姿で一举に解消されます。この演出は見事というしかありません。

四幕目の前にみゆきさんを除く出演者がカーテンコールを行います。観客から拍手が鳴り響き続けます。そして、四幕目。今度はジョバンニになって、つまり男の子の姿で登場して、銀河鉄道の機関車に乗って去って行って終わりました。

時刻は10時30分。開演から2時間30分のユニットでした。出口で写真を取る人、話を続けている人などを横目で見つつ、劇場を後にしました。かつてオスロの国立劇場の出口付近でうろうろしていたら、王女様に出会えた経験があるので、残っているべきだったかも知れません。

Dokugaku 流の評価をすると、☆☆☆☆★というところでしょうか。ファンにとっては十分満足できる公演だったと思います。

【資料編】



① ごあいさつ・・・『夜会』って何？

「『夜会』って何？」と迷いながらも劇場まで足を運んでくださったお客様に、今宵、心より御礼申し上げます。

お忙しい日々の中、ほんの短い時間ではございますが、不思議な味わいの空間でお寛ぎいただけたら幸いと存じます。

1989年に「言葉の実験劇場」と銘うってスタートして以来、「『夜会』って何？」という問いは、私としてもなかなか説明しづらいものでした。コンサートツアーのようすとも違うし、演劇とも限らないし、ミュージカルというイメージでもないような……………

14回目を迎える2006年、最近の私は「つまり、ヘンなコンサートです」と説明することになっています。

1つの楽曲、^ひ延いては1つの言葉が、視覚的な変化や聴覚的な変化、空気感や時間帯などといった要素を経て、さまざまな意味あいの可能性を増やしてゆくことができないだろうか、というトライが、いつも変わらず根幹にある『夜会』のテーマです。

ただし、その方法はたぶん数限りなくあるのだろうということに、そこへ踏み出してみてもやっとなんげ、今もとても愕然としているのは、他ならぬ私かもしれません。

「『夜会』って何？」の旅は、私にとっては、とてもオモシロ

イ荒旅^{あらたび}です。

どうぞ御一緒に、ひとときの不思議な旅をお楽しみください。

中島みゆき

② 幕割り

1 幕	1 場	「アパート」
	2 場	「リゾート・ホテル」
	3 場	「法廷」
	4 場	「列車」
	5 場	「水底の廃駅」
	6 場	「ミラージュ・ホテル」

(休憩 20 分)

2 幕	1 場	「ミラージュ・ホテル」
	2 場	「廃墟堰」
	3 場	「霧の川」
	4 場	「転轍機」
	5 場	「もうひとつの法廷」
3 幕	1 場	「もうひとつのアパート」
4 幕	1 場	「銀河鉄道」

③ あらすじ

1 幕 かつてデザイナーを夢見た川辺アカリは今、都会の片隅のアパートで下請けの針仕事にしがみついている。夫の職場も不景気にあえいでいる。「こんな人生じゃなく、もっと違う人生があったならば」と溜息をつくアカリは、ある晩、過労から突然倒れて生死の境をさまよう事態になってしまった。

現身^{うつしみ}から遊離したアカリを「思いがけない幸運」が誘い出す。海外旅行招待に当選という幸運に酔うアカリを待ち受けていたのは、しかし、夫が殺人事件の犯人に仕立てあげられる罠だった。死刑を宣告された夫から引き離され、追放されたアカリを乗せて列車は不思議な駅へと迷い込む。朽ちた駅舎の暗がりから現れた

出迎え番頭に導かれるまま、アカリがたどり着いた先には、幻と名の付いたホテルが聳^{そび}え建っていた。

2 幕 夫の元へ戻ろうと焦るアカリだったが、このホテルでは奇妙なことが続く。救いを求めて掛けた電話に、日本の友人は「アカリは今、意識不明で入院してるわ、あなたは誰？」と疑うばかり。ホテルの中は迷路となっていて、アカリは自分の影とさえ遊離してさまよう。さまよいながらアカリが次第に気づいてゆくのは、ここがホテルではなく水底の、荒廃した堰であるという正体だった。非常な堰によって遡上を妨げられた魚たちの嘆きと混乱の中で、アカリは自分の心をさかのぼり、思い出そうと試みる。この悪夢のような人生から、もうひとつの人生へと切り替える転轍機が、どこかにあったはずだということを……。

3 幕 デザイナーとして活躍中の川辺アカリが床に倒れている。陰に呼ばれて息をふき返すアカリ。仕事の手を休めた夫と連れだって、仲睦まじく外出してゆくアカリを影が見送っている。

4 幕 銀河鉄道を旅する魂たちの物語を紡いで来た KENJI の、あいさつ。そして旅の続きへと出発してゆくジョバンニ。夜空を汽笛が横切ってゆく……。

④ 曲目

- 1 幕 1. サヨナラ・コンニチハ
2. 線路の外の風景
3. 分水嶺
4. フォーチュン・クッキー
5. パーティー・ライツ
6. 闇夜のテーブル
7. 情婦の証言
8. ティムを探して
9. 廃線のお知らせ
10. 遺失物預り所
11. 水を点して 火を汲んで
12. ミラージュ・ホテル

- 2 幕 13. ミラージュ・ホテル
14. メビウスの帯はねじれる
15. DOORS TO DOORS
16. リゾート・ラッシュ
17. 水の線路
18. 我が祖国は風の彼方
19. 帰れない者たちへ
20. 月夜同舟
21. 命のリレー
22. サーモン・ダンス
23. 二雙の舟
24. 無限・軌道
25. ミラージュ・ホテル (Inst.)

- 3 幕 26. サーモン・ダンス

- 4 幕 27. 命のリレー
-

⑤ 転生 (New album)

1. 遺失物預り所
2. 帰れない者たちへ
3. 線路の外の風景
4. メビウスの帯はねじれる
5. フォーチュン・クッキー
6. 闇夜のテーブル
7. 我が祖国は風の彼方
8. 命のリレー
9. ミラージュ・ホテル
10. サーモン・ダンス
11. 無限・軌道
-

⑥ 帰れない者たちへ (New single)

1. 帰れない者たちへ
2. 命のリレー